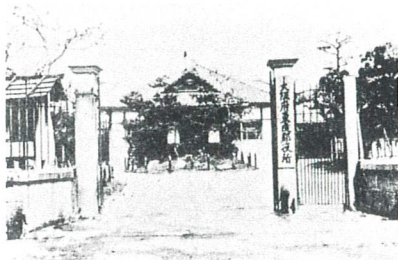


天王寺区の歩み

明治の天王寺

明治の天王寺

明治20年ごろまでの天王寺は「四天王寺の境外は農家ばかりで、茶臼山などは狐、狸が出没する」といわれるところでした。明治の初め頃の現在の天王寺区の区域は大阪府東成郡と西成郡の各一部から成っていました。

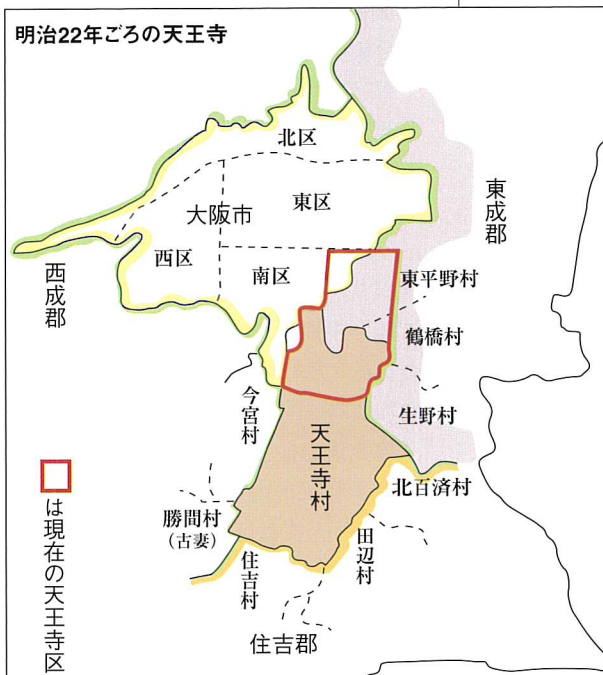


東成郡役所

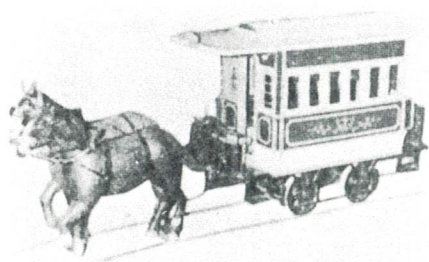
明治14年には東成・住吉郡役所が天王寺秋の坊に開かれています(明治29年に住吉郡廃止)。その後大阪鉄道の湊町～柏原間の鉄道開通と天王寺駅の開業(明治22年)、城東線の天王寺～大阪間の開通(明治28年)な

どの交通の発達、明治30年の大阪市への編入後の住宅地や学校の建設、同36年の内国勸業博覧会の開催と飛躍的な発展をしていきます。

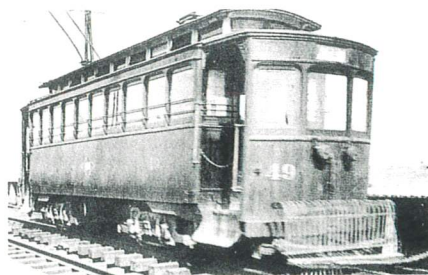
明治22年ごろの天王寺



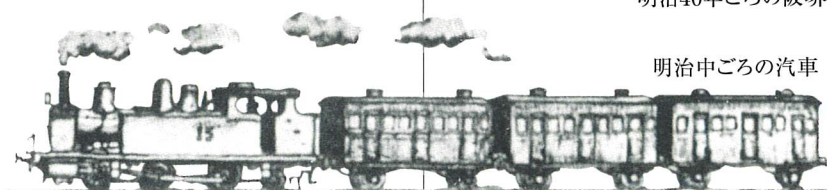
□
は現在の天王寺区



馬車鉄道



明治40年ごろの阪堺鉄道



明治中ごろの汽車

鉄道の発達

大阪に初めて鉄道がついたのは明治7年の大阪・神戸間です。天王寺の町に汽車が走るようになったのは大阪鉄道会社(現JR)が湊町から柏原の間に開設した明治22年5月で、天王寺駅も開業しました。その後28年10月には城東線(現環状線)が天王寺～大阪間に開設され、天王寺は交通の中心としての地位を占めるようになりました。

また33年9月には天王寺西門前から東天下茶屋間に軌道上を馬車が走る馬車鉄道(現阪堺電軌上町線)が敷設され、同年10月には南海鉄道天王寺支線の開通と次々と鉄道網がつくられ、天王寺駅はターミナルとして形成されていきました。

明治の天王寺



第5回内国勸業博覧会

第5回内国勸業博覧会

明治36年3月から5カ月間、いまの天王寺公園と新世界一帯で「第5回内国勸業博覧会」が開かれました。これは日本万国博覧会や国際花と緑の博覧会と同じ国際的な博覧会でした。海外からも13カ国が参加、初めて自動車

やカメラなどが出品されました。

大阪の町はこの博覧会をきっかけに近代化が進み、市電の開通、巡航船の運行が始まりました。会場となった天王寺周辺は急激に人家が多くなり、以前の田畑の風景から大変貌をとげることになりました。



天王寺公園と市立美術館

天王寺公園の開設

天王寺公園は大阪市立公園では中之島公園（明治24年開設）に次いで2番目につくられた公園です。公園の礎となったのは第5回内国勸業博覧会の跡地で、博覧会から美術館や勸業館等を引き継ぎ、明治42年に東部の49,500坪、45年に西部の15,000坪を開園しました。公園の東方一帯の高台は温室・花壇を設けた西洋式公園であるため、この種の公園として大阪第一といわれました。